

江 刺

(岩手県奥州市)

注目ポイント！

江戸時代からの歴史的建造物「蔵」を現代に活かしたまちづくり。
テーマパーク(えさし藤原の郷)来訪観光客を中心商店街に誘導。

江刺の観光入込客数が58万人から74万人に約3割増加！
(平成13年) (平成17年)



えさし「蔵まち」の町並み

コラム

大河ドラマ「炎立つ」のメインロケ地であり、その後テーマパークとなった「えさし藤原の郷」は集客に成功した。そこで、わずか1kmしか離れていない中心市街地の活性化を図るために、江刺の歴史的文化的文化財である「蔵」を現代に活かした観光客の誘導に取り組んでいる。



観光カリスマ
(株)黒船 代表取締役社長
綾野 輝也氏

これまでの経緯

- 平成 3年(1991) 平成5年の大河ドラマが奥州藤原氏の興亡を描く。「炎立つ」に決定。綾野氏をはじめ、青年会議所、商工会議所、行政が一体となってロケ地誘致に取り組み、その後メインロケ地に選定される。
- 平成 5年(1993) ロケに使ったセットを仮設ではなく、永久的なテーマパーク施設として「えさし藤原の郷」がオープンする。
- 平成 9年(1997) 「えさし藤原の郷」が中心市街地の活性化にはつながらなかった事を憂い、ロケ地誘致に奔走した青年会議所メンバ - が中心となって、江刺の歴史的遺産である「蔵」を活かした産業振興を目的に(株)黒船が設立される。
- 平成10年(1998) 中心市街地の中町の中心に「黒壁ガラス館」がオープンし、蔵を再生した町並みの形成がスタートし、中心市街地に賑わいが戻り始める。
- 平成11年(1999) 音をテーマにした「黒船オルゴール岩谷堂」がオープン。「ふるさとの川モデル事業」にも指定されている近隣を流れる人首川と川沿いの桜づつみで、中町界隈に「音、水、緑」の周遊空間「黒船スクエア -」が形成される。
- 平成18年(2006) 江刺市が市町村合併により奥州市となる。



えさし藤原の郷

主な取り組み

蔵を守り活かしたまちづくり～黒船スクエア～

「えさし藤原の郷」へ訪れる年間約30万人の観光客を江刺の中心市街地に誘導したい。地元の若手経営者11人が発起人となり、(株)黒船を設立。

数多く残る「蔵」に着目し、「蔵」を守り活かしたまちづくりに向けた本格的な取り組みを始める。「蔵」を活用した第1号店として、「黒壁ガラス館in江刺」をオープン。

その後、音をテーマにした「黒船オルゴール岩谷堂」のオープンへ発展し、近隣を流れる人首川の整備や川沿いの桜つつみなど官民が協働で“音、水、緑”の周遊空間「黒船スクエア」を創出。

「蔵」を守り活かすまちづくりが成功し、現在では「えさし藤原の郷」からの誘導ではなく、「黒船スクエア」を目的に訪れる観光客も増え、賑わいをみせている。



黒壁ガラス館in江刺



ガラス館の賑わい

「蔵市」と「郷土芸能」で賑わい

黒壁ガラス館やオルゴール堂などの蔵をはじめとした蔵町モール(歩行者専用道)では、「蔵」の町並みと街路整備をきっかけとして、郷土芸能披露や地場の農産物を販売する「えさし蔵まち市」を地区商店街をあげて開催。

また毎週水曜午後の蔵まち「水曜日」では、地元の新鮮な野菜や、知名度が高くファンも多い江刺りんごを販売するなど、観光客へ「蔵のまち・江刺」と江刺ブランド商品を強く印象付けている。



「えさし蔵まち市」の賑わい

地域主導の「蔵」のまちづくり

蔵を活かした和風の商店街の形成のため、中町振興会、商店会関係者がつくる「中町まちづくり委員会」が、地域住民全戸の承諾を得て「中町まちづくり協定」を作成。蔵の保存はもちろんのこと、店舗や住宅にいたるまで新・増改築にあたっては「色調は白、黒、茶、屋根の形状、素材は和風」等と取り決め、地域住民一体の「蔵」のまちづくりを進めている。



「蔵」の再生状況

問い合わせ先

奥州市江刺総合支所商工観光課

Tel: 0197-35-2111

江刺商工会議所

Tel: 0197-35-2514

<http://www.pup.waiwai-net.ne.jp/~eccj/>